

桃山学園だより



◆新年度を迎えて

桃山学園長 岩本 俊也

昨年9月の台風21号の影響で学園周囲の桜も大きな被害を受け、今年の開花がとても心配していましたが、例年どおり園庭の“桃山桜”は見事に咲き揃い、新しい職員を迎えての恒例のお花見会が盛大に催されました。また、平成から令和へと元号も改まる年でもあり、今年はいろいろな意味で区切りを迎える年として職員一同心も新たに頑張っていこうと思います。

ところで、『不易流行（ふえきりゅうこう）』という言葉をご存じでしょうか。いろいろな解釈がありますが、一つに「不易とは、いつまでも変化しない本質的なものを忘れない。流行とは、その時代時代にに応じて変化すること。」とされています。

この言葉を私たち職員の姿勢として言い換えてみますと、時代が移り変わる中で、『支援を必要とする子どもたちへの熱い想いや、法人の理念は“変えてはならないもの（普遍的なもの）”として常に念頭に置き日々の支援にあたりたいということ。また一方で、私たち職員は、自らの手で法人や桃山学園を“変えていくこと”について具体化し、準備し、近い将来に向けてのビジョンも示していくこと。』こういった姿勢で日々支援にあたっていきたいと思います。そして、毎日を生き活きと活気のある元気な職場を作っていくようにしたいとも思います。

今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

京都府社会福祉事業団 基本理念

- 1 社会福祉施設としての公的責任を果たす施設であること
- 2 利用者の権利を擁護し、利用者本位の、利用者には選ばれる施設であること
- 3 地域福祉の向上のため、地域との連携を図り、地域から信頼され、地域に開かれた施設であること
- 4 主体性のある法人・施設をめざすこと

